**２０２３年７月28日(金)　市民交流センター会場**

 山田真砂年

 胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

 ななふしの大きく跨ぐ夏の草 田中幸子

 炎昼やアイドリングのディーゼル車 秋澤夏斗

 雲湧ける峰々を真向きに凌霄花 北杜　駿

〇 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

 増山叔子

 氷室なる蕾の固き花の束 田中幸子

 蟬時雨氷室稲荷の四手揺るる 武居玲子

 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

〇 青東風や錫の器に海のもの 石田経治

 行く夏や風穴霧の立ち渡り 武居玲子

 星のミラ

 胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

 雲白く遊子Tシャツ半ズボン 井上　基

 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

〇 青東風や錫の器に海のもの 石田経治

 いただきし地図よりいつそ道をしへ 井上　基

 木代爽丘

 病得て後の一年夏うぐひす 増山叔子

 坂多き街も青嶺ももとのまま 井上　基

 雲白く遊子Tシャツ半ズボン 井上　基

〇 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

 馬場跡を蜥蜴の走る亭午かな 秋澤夏斗

 井上　基

 縁側はもとよりすずし虚子旧居 北杜　駿

 馬場跡を蜥蜴の走る亭午かな 秋澤夏斗

 雲湧ける峰々を真向きに凌霄花 北杜　駿

〇 道をしへ大手門より登城せり 山本よしえ

 ななふしの大きく跨ぐ夏の草 田中幸子

 髙橋庸夫

 胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

 斑猫を探し求めて道を聞く 星のミラ

 帰省子となりて降り立つ小諸駅 井上　基

〇 道をしへ六尺後を虚子の道 山田真砂年

 道をしへ参拝をして天守へと 山本よしえ

 山本よしえ

〇 青東風や錫の器に海のもの 石田経治

 里山に続く一筋道をしへ 髙橋庸夫

 夏蝶や黒門の扉の釘隠し 秋澤夏斗

 濃く淡く万緑堀を覆ひ切る 木代爽丘

 鉢の蓮開く朝の山の駅 秋澤夏斗

 秋澤夏斗

 蟬時雨氷室稲荷の四手揺るる 武居玲子

 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

 分蘖の青田に万の雨の粒 石田経治

 道をしへ大手門より登城せり 山本よしえ

〇 的の矢を取りにゆきたる白日傘 増山叔子

 武居玲子

〇 炎天の底に村あり氷村 山田真砂年

 夏霞富士八ヶ岳はるかあの辺り 木代爽丘

 古城址に藍一色の四葩かな 木代爽丘

 胸突きの磴をのぼれと道をしへ 石田経治

 遊ぶ子の影は濃かりき青胡桃 石田経治

 田中幸子

〇 炎天の底に村あり氷村 山田真砂年

 行く夏や風穴霧の立ち渡り 武居玲子

 古城址に藍一色の四葩かな 木代爽丘

 坂多き街も青嶺ももとのまま 井上　基

 道をしへ六尺後を虚子の道 山田真砂年

 北杜　駿

 山百合の蕊をくすぐる朝の風 石田経治

 遊ぶ子の影は濃かりき青胡桃 石田経治

 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

 青東風や錫の器に海のもの 石田経治

〇 いただきし地図よりいつそ道をしへ 井上　基

 石田経治

 鉢の蓮開く朝の山の駅 秋澤夏斗

 尊虚子のいほりすずしく彳(たたず)める 北杜　駿

 炎天や地図には見えぬ上り坂 山本よしえ

〇 的の矢を取りにゆきたる白日傘 増山叔子

 雲湧ける峰々を真向きに凌霄花 北杜　駿